



## (パネリスト紹介)私を取り巻くダイバーシティ

著者名	後藤 憲子
雑誌名	東京女子医科大学女性医師・研究者支援センター女性医師支援シンポジウム抄録集
巻	平成25年度
ページ	11-11
発行年	2013-05-25
URL	<a href="http://doi.org/10.20780/00031946">http://doi.org/10.20780/00031946</a>

## パネリスト紹介

後藤 憲子

株式会社ベネッセコーポレーション

ベネッセ次世代育成研究所 主任研究員

### 略歴

- 1982年 03月 早稲田大学第一文学部卒業  
04月 (株) 福武書店 (現、ベネッセコーポレーション) 入社  
1982年 04月 教材編、書籍、雑誌の編を経験  
1993年 04月 育児雑誌「ひよこクラブ」の創刊に編集メンバーとして関わる  
1995年 04月 教育研究門に異動  
子育て、教育に関する調査研究を担当  
2006年 01月 ベネッセ次世代育成研究所設立 管理職として研究所の立ち上げを担当

今までに関わった調査

「子育て生活基本調査」「学習基本調査」「乳幼児の父親についての調査」

「妊娠出産子育て基本調査」「幼児教育・保育についての基本調査」など

### 私を取り巻くダイバーシティ

「ダイバーシティ」という言葉には、国籍や言語の異なる人がチームを組んで仕事をする、というイメージがあります。でも、それだけかな？ という疑問があります。

会社の中で他部門の人とチームを組んで仕事をするときにも、メンバーそれぞれがいろいろな考え方や価値観を持っていることを感じます。対象顧客や事業形態が違うことで、組織文化も違っているためです。部門間の横断プロジェクトは、調整が大変ですが、うまくいくと新しいアイデアが爆発的に出てきます。物事を見る視点がたくさん得られ、お互いに刺激になるからでしょう。

最近では、会社の内外でチームを組んで仕事をしたり、契約形態の違う人、専門分野の違う人と一緒に仕事をする機会も増えています。それぞれの違いを認めながら仕事をするのは苦勞も多い。でも、そこに何らかの学びを見出し、時にリーダーシップを発揮し、時にフォロアーシップを意識しながら関わっていくことが、今の時代に求められていることを強く感じます。

ダイバーシティを成功させるキーワードは・・・、詳しくはパネルディスカッションでお話したいと思います。